

参考資料2-1

ライトラインおよびバス路線の利用状況等について

1-(1) ライトライン等の利用状況

① ライトラインの利用状況

平日の通勤・通学に加え、休日にも多くの方にご利用いただき、2月3日には利用者数**200万人**を達成（当初予測の約**1.2倍**）するなど、**地域の移動手段として定着しつつある。**

⇒ **引き続き、より多くの方にご利用いただけるよう、更なる利用促進を図っていく。**

表 ライトライン利用者数（データ提供：宇都宮ライトレール株）

利用状況	1か月目 (8/26~9/25)	2か月目 (9/26~10/25)	3か月目 (10/26~11/25)	4か月目 (11/26~12/25)	5か月目 (12/26~1/25)	当初予測 (開業初年度)
利用者数 (1月当たり)	約420,000人	約380,000人	約390,000人	約370,000人	約340,000人	約312,400人
平日 (1日当たり)	約12,000~13,000人	約12,000~13,000人	約13,000人	約13,000人	約12,000人~13,000人	約12,800人
土日祝 (1日当たり)	約15,000~16,000人	約11,000~12,000人	約11,000~12,000人	約10,000人	約9,000人	約 4,400人

※ 視察件数は、全国各地の行政・民間企業等のほか、海外からもお越しいただき、**開業後5か月で、201件（約3,000人）**となっている。



写真 視察（車両基地）の様子



写真 視察（座学）の様子

1-(1) ライトライン等の利用状況

② 駅東側バス路線再編と新設バス路線の利用状況

駅東側バス路線再編については、平日1日当たり148本増便され、全体として利便性の向上が図られたところであるが、LRTと接続する新設バス路線については、平日1日当たりの平均利用者数は、「宇都宮大学陽東キャンパス停留場」発着の3系統で約360人、「清原地区市民センター前停留場」発着の4系統で約150人となっており、一般的に需要の定着に3年程度を要するとされていることから、現時点では目標水準に達していない。

⇒ 今後とも、**利用状況を調査・検証しながら、適宜、運行サービスの改善を図るとともに、定期利用者の確保に向けて、通学者を対象とした利用促進策などに取り組んでいく。**

表 新設バス路線の利用者数

起終点となるトランジットセンター	8/27~ 12/31	平均利用者数（実績）				目標水準(3年経過後) (1日当たり利用者数)	
		平日		休日		平日	休日
		1日当たり	1便当たり	1日当たり	1便当たり		
①宇都宮大学陽東キャンパス(3系統)	44,982人	364.3人	3.25人	330.4人	4.03人	590人	450人
②清原地区市民センター前(3系統)	14,735人	148.0人	2.77人	48.8人	3.15人	680人	420人
③芳賀工業団地管理センター(4系統)	4,517人	37.8人	1.08人	30.9人	2.06人	440人	180人

※目標水準は、国補助の要件である収支率55%を満たすと見込まれる人数

③ 地域内交通とライトラインやバスとの乗継の利用状況

地域内交通と他の公共交通機関との乗継利用割合は、ライトライン開業前は地域内交通利用者数全体の2.5%程度であったが、開業後は4.5%程度となるなど、大幅に増加している。

⇒ **今後とも、地域運営組織と連携しながら、乗継利用の促進を図っていく。**

1 - (2) 利便性向上の取組

① ダイヤ改正（宇都宮ライトレール(株)の取組）

開業直後においては、運賃収受に時間を要し、ダイヤに大幅な遅れが生じていたものの、停留場での案内放送や広報紙等の様々な媒体を通じた周知により、**乗り方の定着やICカードの利用率が向上し、概ね定刻通りに運行**

⇒ **現在の利用状況などを踏まえ、更なるサービス向上を図るため、ダイヤ改正を実施**

ポイント1 宇都宮駅東口から芳賀・高根沢工業団地間の**所要時間を最短「約44分」に短縮**

ポイント2 通勤・通学需要に対応した**増便等**

ポイント3 通勤・通学利用者及び長距離利用者の利便性向上を目的とした**快速運行の実施**（※朝ピーク時間帯）

② 車両の追加導入

ライトラインの運行については、宇都宮ライトレール(株)、芳賀町と連携し、安定運行の確保に努めている中、小中学校の社会科見学等における**貸切運行の需要の高まり**や、今後、サイクルトレインといった**観光目的での利活用なども見込まれる状況**

⇒ 車両（2編成）を追加導入することで、**様々なニーズに対応するとともに、不測の事態が重なった場合においても、安定した運行を確保**するなど、**ライトラインの更なる利便性向上**を図る。

（令和8年度までに導入予定）